

### 3 多様な価値観の尊重

既に述べたように、合衆国では身体障害者が日常的に外出できる環境が整っているように見える。では、これ以外には様々な弱者に対してどのような社会的対応がなされているだろうか。



写真9

シカゴのオヘア空港ではコンコースで写真9のような表示を見ることができた。これは壁面に心臓マッサージの医療キットが設置されていることを示すものであった（写真10）。高齢者や既往症を持つ人々にとって、救急救命医療が重大な意味を持つことはしばしば指摘されることである。法律や制度の違いはあるが、病院やレスキューでなく、一般に開かれた場所にこのよう



写真10

な設備が完備されていることが、あらゆる非常事態に対応しようという社会の充実ぶりを物語るものである。同様の設備は他にも大リーグ、サン・フランシスコ・ジャイアンツのホームグラウンド、パシフィック・ベル・パークの観客席に設置されているのを見ることができた。

身障者ばかりでなく、支援を必要とする人々に対する施設設備の充実が、平等公平な社会実現に通じるものであるといえよう。様々な立場、嗜好性の人々に対する選択肢は明らかに日本より広く保障されている。

サン・フランシスコの高級百貨店メイシーズのトイレでは男性用トイレの中にも幼児用のオムツ取替えスペースが確保されている（写真11）。



写真11



写真12

アメリカ合衆国では、社会的、ないし家庭内での男女の役割分担の平等化が進んでいることを覗かせるとともに、年間120万件ともいわれる離婚の増加によって<sup>3</sup>、男性・女性を問わずシングルで子供の養育をするケースも増えていることを示しているように思われる。また、自身がゲイであることを公表し、養子を育てることも社会的に認知されるようになってきているという<sup>4</sup>。カストロ・ストリートに全米最大のゲイ・コミュニティを持つサン・フランシスコの多様性をも示しているように思われる。

こうした価値観の多様性を示すものとして、次の事象を挙げよう。カリフォルニア州立大学バークリ校のユニオンの男性用トイレに設置されていたのは、なんと男性用避妊具の自動販売機であった（写真12）。性に関する価値観の多様性や開放的な指向性を示すものである。日本にもこうした自販機がないわけではない。しかし、学生対象の福利施設とはいえ、高等教育機関の中にこうした設備が存在していることが筆者にとっては大変な驚きであった。

### 4 様々なアメリカ社会の現実

筆者にアメリカ合衆国の様々な姿を（否定的な面も含めて）強く意識させたのは、本多勝一のルポルタージュ『アメリカ合州国』である<sup>5</sup>。同書のもとになった取材が1969年に行なわれたものであることは考慮しなければならないが、同書に描かれたアメリカの大都